



- 市内の小中学校施設は、建設から30年以上を経たものが全体のほぼ9割を占め、その中でも古い校舎は建て替えの時期が近付いている状況にあります。
- 本市では、未来を担う子どもたちが、心豊かでたくましく自立した人間として育つよう、これからの学校施設のあり方について「各務原市学校建替基本方針策定委員会」を設立し、調査・審議を進めていきます。
- ここでは、委員会の会議内容を紹介していきます。

## 1. 第3回各務原市学校建替基本方針策定委員会を開催しました。

令和4年12月28日(水)午後1時30分から第3回各務原市学校建替基本方針策定委員会(以下、委員会といいます。)を各務原市産業文化センターで開催しました。

## 2. 多様な学習活動を展開できる教室空間について議論しました。

授業では「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視するようになり、学びの形態の多様化や使用する教材も変化しています。こうした変化に柔軟に対応できる創造的空間が求められています。

旧 JIS 規格の机



旧 JIS 規格の机上は、教科書が大きくなりタブレットもあるためかなり手狭。このほか、荷物の増加によりロッカーサイズが不足しています。

現在の通常教室



小学校と中学校の教室の大きさは同じ 64㎡。グループ学習用に机の配置変更をするにも余裕がありません。生徒の体がしっくりくる中学校では更に狭い状況です。

柔軟性・可変性のある空間



教室に隣接する空間を活用してグループ学習をしたり、間仕切りで閉じた空間としたりできる先進地事例を参照し、柔軟性・可変性のある空間について議論しました。

## 3. 第3回委員会が出された主な意見を紹介します。

### ■新しい教育に対応した教室空間へ

- ・授業内容により、知識伝達型の授業と課題解決学習に適した学習形態(グループ学習や個人学習など)を柔軟に選択できるような施設が良い。
- ・机は、旧 JIS 規格(左上写真参照)では狭いため、新 JIS 規格での教室空間を検討する必要がある。

### ■児童・生徒の交流を促す「オープンスペース」と個人対応ができる「小空間」

- ・普通教室に隣接したオープンスペースを設け、空間を広く活用できる環境とすることが必要。一方で、個人によっては狭い空間も必要な場面もあり、パーソナルスペース等の閉じた空間があっても良い。

### ■アンケート調査の実施について

- ・記述ではなく、選択肢を設けるなど、回答作業を簡易化できると良い。
- ・事前に学校関係者にヒアリングを行った上で、その内容をアンケート調査票に反映できると良い。

※委員会の開催日程は、市の公式ウェブサイトに掲載します。2か月に1回の開催予定です。

【お問合せ先】各務原市役所 教育委員会事務局学校施設課 施設整備係

TEL : 058-383-1814 (直通) FAX : 058-389-0218

E-mail : gakkoshisetsu@city.kakamigahara.gifu.jp